

基調講演 製薬産業の持続的な発展に向けて

A-9

9:00▶9:45



日本製薬団体連合会 会長
国際製薬団体連合会 副会長
アステラス製薬株式会社 代表取締役会長
野木森 雅郁 氏

製薬産業は、健康な生活及び長寿を享受できる「健康長寿社会」の実現に向けて、革新的な新薬創出を契機に、そのイノベーションが評価され、新薬から後発・OTC医薬品への転用が次なる新薬創出に繋がる『グッドスパイラル』によって貢献する。そのためのイノベーションを促進する仕組みの構築、先端技術の追求や産学官連携の活性化、患者アクセスを阻害しない医療環境の整備など、製薬産業の役割について考えたい。

特別講演 バイエル ヘルスケアの研究開発における外部パートナーとの戦略的提携について

A-12

14:00▶14:45



協力: 欧州製薬団体連合会 (EFPIA Japan)

バイエル薬品株式会社 開発本部
オープンイノベーションセンター センター長 高橋 俊一 氏
バイエルヘルスケアでは、世界中のアカデミア・研究機関・ベンチャー企業・製薬企業などとパートナーシップを結んできました。提携は、基礎研究・新規の技術開発・具体的な研究開発のプロジェクト・共同開発など多岐にわたります。バイエル薬品は2014年オープンイノベーションセンターを新組織として発足し、また外部との提携のための事業開発部門もあります。グローバルおよび日本における研究開発の戦略的パートナーリングについてお話しします。

特別講演 A-10 第1回 わが社のオープンイノベーション【第1部】

協力: 日本製薬工業協会

10:00▶10:30 【基調講演】

**日本医療研究開発機構のミッションと展望について**

慶應義塾大学医学部長 医学部 医化学教室 教授
(独)日本医療研究開発機構 理事長予定者 末松 誠 氏

日本医療研究開発機構は、医療分野の研究開発における基礎から実用化までの一貫した研究開発の推進と環境の整備を総合的かつ効果的に行うため、医療分野の研究開発及びその環境の整備の実施、助成等の業務を行うことを目的とする。文部科学省、厚生労働省、経済産業省の医学・医療の研究費を一括管理し、創薬や医療機器の実用化プロセスの加速・推進をミッションとして担うことになる。講演では新機構のミッションと展望について論じたい。

10:35▶11:00



【プレゼンテーション1】

創薬研究の活性化と産学官の連携について

日本製薬工業協会 研究開発委員会 産学官連携部会
部会長 川上 善之 氏

産学官連携は革新的な創薬を推進するために必須であり、健康・医療戦略の司令塔であるAMEDにおける創薬支援NWの活動によるオープンイノベーション推進に高い期待を持っている。一方で、日本製薬工業協会ではアジア製薬団体連携会議を主催してオープンイノベーションをアジア全体に広げる活動を進めている。

特別講演 A-11 第1回 わが社のオープンイノベーション【第2部】

協力: 日本製薬工業協会

11:30▶11:55



【プレゼンテーション2】

塩野義製薬におけるオープンイノベーションの取り組み

塩野義製薬株式会社
シニアフェロー 坂田 恒昭 氏

近年の日本の製薬業界には二つのキーワードがある。まず一つは「グローバル化」、そして二つ目は「オープンイノベーション」である。ごく最近まで医薬品産業は最もオープンイノベーションから遠い産業のひとつであるとされてきた。塩野義製薬では自社の研究ニーズを提示して、アイデアを募集するFINDS、SSPを他社に先駆けて実施している。また、いくつかの大学の中に研究室を設置して、アカデミアとのコミュニケーションを図る努力している。本講演ではこれら塩野義製薬のオープンイノベーションの取り組みを紹介する。

12:30▶12:55



【プレゼンテーション4】

第一三共のオープンイノベーションの取り組み

第一三共株式会社 執行役員
研究開発本部 研究統括部長 大槻 昌彦 氏

創薬を取り巻く環境が厳しさを増す中、各製薬会社は、どのようにして良い創薬のタネを見出し、上市していくかという大きな課題に直面している。当然の流れとして、自前主義から脱却し、外部と協業して研究を進めていくことが求められるようになってきている。第一三共におけるオープンイノベーションの取り組みの一端を紹介したい。

12:00▶12:25



【プレゼンテーション3】

持続可能かつ互恵的なオープンイノベーション機会を求めて

アステラス製薬株式会社 研究本部 研究統括部
企画管理グループリーダー 安永 智之 氏

アステラスはオープンイノベーション(OI)を新薬創出力強化の柱と位置付け、アカデミア、ベンチャー、同業などと様々な形態でのOIに取り組んでいる。その中で、相手のアセットを一方的に取り込む形の「狩猟型」OIには競合や費用の高騰など限界も見え始めていることから、より持続可能かつ互恵的な「農耕型」OIの機会を模索している。このようなOIについて事例紹介とともに今後への期待を述べたい。

13:00▶13:25



【プレゼンテーション5】

武田薬品における研究アライアンスへの取り組みと社外シーズ公募の紹介

武田薬品工業株式会社 医薬研究本部
アライアンスグループ グループマネジャー 村西 廣哉 氏

武田薬品工業における前臨床研究ステージでの研究組織体制および外部研究ネットワークキングや研究アライアンスについて紹介いたします。特に研究アライアンスに関しては全体概略とともにオープンイノベーションの取り組みについていくつかの例示させていただきます。加えて、外部アライアンスの種となる外部シーズ公募の取り組みについても紹介させていただく予定です。